

增補考古畫譜

卷三



增補考古畫譜卷三

黑川春村原稿

古川躬行纂輯

黑川真賴增補



春日明神驗記 廿卷
加部

畫右近將監高階隆兼詞書第一二三四五九十一

十二二十三卷合十鷹司前關白基忠公第六七八卷合三

同攝政冬平公第十四十五十六十九廿卷合五同權

大納言冬基卿第十七十八卷合二一乘院良信僧正

驗記目錄關白冬平
公真跡

第一卷 詞前關白

承平託宣事

竹林殿事

金峯山御幸事

第二卷 詞同前

寬治御幸事 永久衆徒鬪亂事

二條關白

事

第三卷 詞同前

堀河左府事 鹿島和歌事

信^某經事

第四卷 詞同前

天狗參入東三條事 永久春日詣時神託事

普賢寺攝政事 後德大寺左府事

第五卷 詞同前

俊盛卿事 季能卿事

第六卷 詞攝政

狛行光事 親宗卿事 蛇吞心經事

第七卷 詞同前

經通卿事 開蓮房夢事 近真陵王事

隆季卿家女房夢事

第八卷 詞同前

清涼寺本尊事 依唯識論功能遁病難事

增利僧都事 壹和僧都事 法藏僧都事

離寺僧蒙神託事

第九卷 詞前關白

祈親持經事

第十卷 詞同前

林懷僧都事 永超僧都事 教圓座主事

教懷上人事

第十一卷 詞同前

惠曉法印事 永万夢想事

第十二卷 詞同前

藏俊贈僧正事 惠珍夢事

思覺事

第十三卷 詞同前

晴雅律師事 勝詮僧都事

增慶事

第十四卷 詞權大納言冬基卿

唯識論遁火難事 隆覺僧正事

頓覺房事

唯識論安置屋遁火災事

第十五卷 詞同前

唐院得業事 教英得業事

大乘院僧正事

紀伊寺主事 清增事

第十六卷 詞同前

解脫上人事 璋圓事

第十七卷 詞良信僧正院一乘

明惠上人事

第十八卷 詞同前

同事

第十九卷 詞冬基卿

正安神鏡事

第廿卷 詞同前

嘉元神火事

繪右近大夫將監高階隆兼繪所預

詞前關白父子四人敬神之志懇切之餘為結緣不

可交他筆之由所被約諾也於篇目者覺圓法印注

出之且相談兩前大僧正慈信訖

予稟藤門之末葉專仰當社之擁護不耐敬神之懇

志為諸人之仰信大概類集之遂猶切嗟全可書加

者也。凡企此懇志之後。家門觸事有吉祥。爰知相叶。祖神之冥慮歟。後輩彌可抽敬信之精誠而已。

延慶二年三月日

左大臣藤原朝臣署押

補桑名本奥書云。春日權現驗記廿卷。故ありて。勸修寺家より朝に奏して。一切神庫を出し事をゆゑるさまを。とより摸寫の本。勸修寺家の外一切無之事也。そむらの事定ざる前。田安御屋形おて。近衛家へ懇願し給ひて。不殘摹寫出來候處。祝融の為は烏有とある。其後再びその御企ありて。又々近衛家へ懇願し。上十卷餘り摸寫出來せし。黄門君かくせ給ひてよ。終に中絶。その後に至り。神庫不出之規定出來して。企及ひらたき事。成たるを。松山少將君と。予とさま。と。ま。を。う。る。森

可林とて。田安より予に附來るそのあり。かきハ勸修寺家の親族あり。そむより摸寫して。黄門君の志をつまほしきことを。深く懇願し及ぶ。許容成らたき所。誠實の情を被察。勸修寺家より。鷹司關白殿へうつたへ。そむよ。御氣色をも。うらがをきて。終に兩家の外へハ出を。るらさるのよ。し。て。摸寫の免許を得。年月をつみて廿卷成就。實に難得珍寶。難求の奇寶也。後世能々秘藏を。る。ま。を。る。

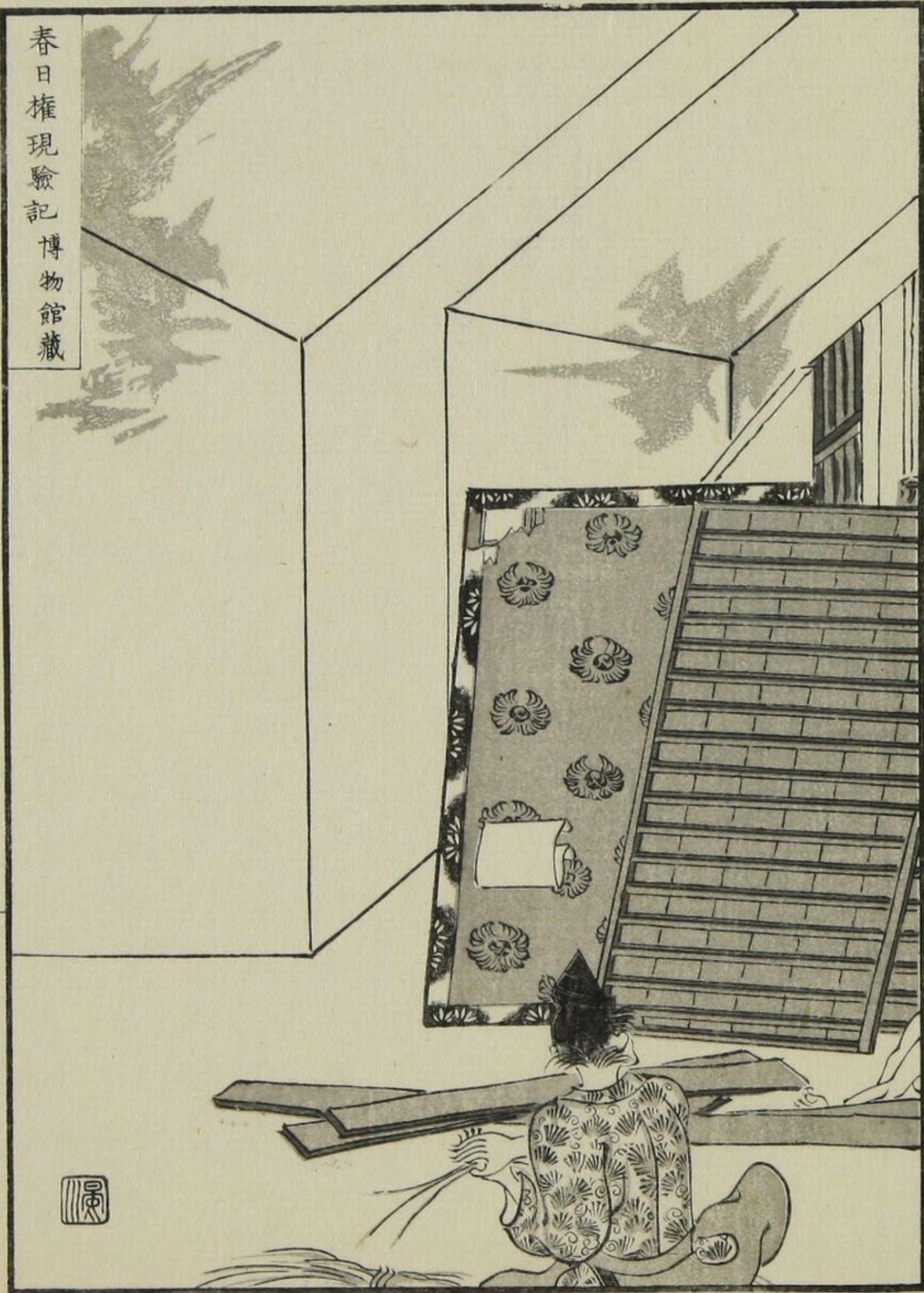
文化四卯年七月廿四日

左近衛少將兼越中

守源朝臣定信識

補大乘院寺社雜事記云。寛正六年十二月十九日。驗記繪二十卷。仰師淳召寄拜見了。

春日権現験記 博物館蔵



春日権現験記 博物館蔵

五



春日権現験記 博物館蔵

好古小録云。隆兼畫力精好。微物ト雖苟モセズ。古今繪詞傳數種有トイヘ。氏考古ノ益アル。此驗記ニ並ブモノアラシヤ。年中行事ノ畫ト伯仲ス。唯識者ノ遍ク熟覽スル事不能ラ遺憾トスベシ。土佐系圖云。文永年中隆兼親。士佐隆。男。畫春日社驗記。

補古畫目錄云。春日權現縁起。右近大夫將監高階隆兼。春日社什物。右ハ京都勸修寺家ニアリ。土佐系圖。

補倭錦云。春日權現驗記二十卷。詞鷹司殿關白御父子四人。繪高階隆兼。

躬行曰。桑名本奥書を按る。此卷子一旦ハ勸修寺家の有る。其後鷹司家ト轉ゼ。

や。春日社司富田光美曰。此卷故ありて安永頃より世上ハ流傳。つひハ鷹司家の藏とあり。文化のころ本社ノ神庫トをさめらる。件の流傳の際。十五十六十九の三卷散佚。て尾州家の藏トをせるといへりき。其のち又第六第十二第十三ウけて。今ハ十四卷トをせり。文化四年桑名侯摹寫の日ハ。全備のものとあそむる。とを。あそむらくのやど。かく缺本ト成ぬるハ。を。い。む。堪たり。又曰。隆兼ハ。此目錄及元徳加茂祭摹本奥書等より。延慶元徳中の人トを。隆親ニ男文論あり。さるを。上。引。さる系圖。隆親ニ男文永中驗記を。書く。と。ハ。何事とや。驗記ハ延慶の

撰ふして。文永ふハ隆兼未生以前あり。况隆親ハ。保延頃の人をまじバ。延慶ふ至りて稍百八十餘年あり。豈濫あらざや

又曰。明治八年三月鷹司家。全部を博物館に獻せらる。即賞金五百圓を賜ひ。之を博物館にあらる。全卷二十のうち。第六。十二。十三。十五。十六。十九の六卷ハ已に缺して。現存十四卷。絹本を。同十年修補を加へらる。

補真頼曰。鷹司家春日驗記を博物館に獻せ。但其の卷の數ハ。古川氏のいなきたるがごとし。まらるを又。明治十一年十二月同家より卷六。卷十五の兩卷を獻せ。されバ今ハ館に藏せらる。そのすべく十六卷ふて。全部廿卷にハ。四卷

足らざ

補又曰。春日權現驗記摹本廿卷。淺草文庫にあり

春日社利生記 一卷

書畫筆者未詳

貫雄曰。故岡田為恭粉本一卷を藏せり。原本ハ信貫朝臣の筆といへり

春日影嚮圖 一幀

補寺社寶物展覧目錄云。宅磨澄賀筆。誓願寺藏

倭錦云。春日影嚮圖。澄賀筆。誓願寺物

補春日大明神御影

補康富記云。文安元年十月二日云云。梅尾春日大明神御影。御帳被開之。南都大乘院被所望申被開

之。此次所望之族。上下道俗男女拜見。無子細之由。兼有其間之間。奉伴清大外史并藏水等。今日參之。令拜見了。其儀有開帳。寺家之衆有講論之儀式。其後南都衆有法樂之後。大乘院殿有御拜見。御退出之後諸人羣集。頗狼籍之躰也。梅尾本堂ヨリ遙東倚テ有檜皮葺堂一宇。南面也。春日御影。東方西向奉懸之。繪像住吉御影。彼是兩舖也。殊勝云云。

春日大明神鹿島立御影 一幀

古畫類聚目錄云。普賢寺基通公關白筆。春日社司野田某

藏

躬行按。此圖ハ世ニある赤童子の類ニあるべし。本社社司野田氏といふ之の。近來聞え也。但野田ハ。春日山下の地名あり。

補同 一幀

補所藏者不詳。畫工不詳。摹本淺草文庫ニあり

補真頼曰。春日の神々鹿子駕し。縉紳二人陪從せり。畫上ニ大圓鏡を畫りき。そのうちニ五佛像と畫りけり。

春日曼陀羅 一幀

春日驗記第四卷普賢寺云。此殿ハ神慮ニかなひ給ひける。や寶前ニて鹿御の布をねぶるけり。よこ世中ニひろまりたる垂跡の御体のまむたらと。この御夢ニおがませたまひ奉ると。おうらつたへたる。

補同 一幀

補倭錦云。土佐隆兼。春日曼多羅

補同 一幀

補同書云土佐光國春日曼多羅

補同 一幀

補同書云土佐光弘春日曼多羅

補同 一幀

補博物館藏繪隆兼絹本

補真頼曰白鹿の脊上ニ神をたて大圓鏡をり

けたる圖あり裏書云春日社御枝講人數春喜

春慶春養春恒春貴春理春仍と記せり

補同 一幀

補寺社寶物展覧目錄云春日曼茶羅一幅巨勢金

岡筆近衛植家公讚誓願寺藏畫評ニ懸り候物ニ

ハ無之

補同 一幀

補法隆寺伽藍寶物畧縁由云春日曼茶羅春日佛
師筆

補同 一幀

補本朝畫圖品目云春日曼茶羅立物絹地隆兼筆
狩谷掖齋所藏

補同 一幀

補山名貫義藏豎幅絹本

補真頼曰此の春日曼茶羅ハ上ニ本地佛まこ

垂跡の神等をあけり春日權現驗記同時ニ

いで來るものもく驗記と同筆ニ行とお布

也此の畫もトハ興福寺中某院ニありトよ

あり

北神考古書詩卷三

補同 宮曼荼羅 一幀

補同 倭錦云。土佐吉光。春日宮曼荼羅。大幅

補同 一幀

補同 書云。住吉慶恩。春日宮曼荼羅。數内小

補同 一幀

補 春日經隆筆。菊池省三藏

補 真賴曰。予こむを見る。紺本。堅之の著色あり

補同 一幀

補 倭錦云。土佐經隆。春日宮曼荼羅

補同 一幀

補 黒川真賴藏。堅幅絹本。とハ奈良大乘院藏

貫義曰。樹木をまらけり筆意。信實朝臣の風あり

同 星曼陀羅 一幀

倭錦云。土佐權守經隆。春日星曼荼羅

同 鹿曼陀羅 七幀

補 同書云。住吉慶恩。春日曼陀羅七幅。梅尾明恵上人

母堂病氣為平愈。命慶恩七幅。畫諸寺諸山。納

躬行曰。明恵名高辨。寛喜四年五月十九日。化を

住吉慶恩の事ハ。灌頂卷の所ハいふべし

補同 一幀

補 大和國春日。富田光美藏

補 真賴曰。鞍の上ハ神を樹て。大圓鏡を懸り

神鹿ハ雲上ハたてり。所謂る鹿曼荼羅あり

補同 一幀

補 寺社寶物展覧目錄卷一云。宅磨法眼隆賀筆。鹿

留補考古書詩卷三

曼荼羅一幅。誓願寺藏。住吉法眼もても可有之哉
と内記申候

春日饒馬圖 一座

古畫類聚目錄云。饒馬圖。春日神殿。所畫
柳庵隨筆云。三條院の御時。畫きしものといひ
つたへたり

躬行曰。伊勢貞丈春日社饒馬問答。此繪後三
條帝の御宇。所畫のよみゆ。三條帝ハ誤る
らん

春日住吉二神影 一幀

本朝畫史云。宅間澄賀。梅尾高山寺有春日住吉二
神像。云云

但其說妄誕不堪識于此

鹿嶋祭繪詞

補古繪目錄云。饒馬圖二枚。畫者。春日神殿所畫

本朝畫圖品目云。鹿嶋祭繪詞。常陸國鹿嶋社大官
司家藏

躬行曰。此繪詞。本社大官司中臣鹿嶋連則孝。子
實を。當社。此をの。ある事あり。ま。傳聞を
る所あり。といへり。き。于時慶應の元年五月。ム
日なり。こと蚤く社中を散佚せしむや

鹿嶋神楯圖 一卷

畫鬼形。摸本。淺草文庫。あり

香取社神殿圖 一鋪

香取志下卷云。大禰宜家秘藏せる正殿圖あり。寂
古くして其始をいらむ。常憲院殿とりてみそを
そし。其圖の毀損を惜ませ給ひ。其舊式を倣ひて
一圖を製し下賜たり。大禰宜家藏之。其奥書云。

下總國香取神祠制度圖。大禰宜家之所藏也。蓋自古之所傳而幾及千年云。然未詳其所始也已云々。又修補其圖毀損。且劾其舊式別制一圖而為之副。蓋欲示諸將來以傳永世也。因書其後以藏之云爾。元祿十三年庚辰秋九月日。香取神祠大禰宜讚岐守胤雪謹識。

同社神幸圖 新古各一卷

補羣書備考上卷云。本社大祝所藏温古堂ニ原本ヨリ寫ス所。影寫本。卷首云。一當日之共奉之事次第者。堅任此圖籍。莫及後日之異論云々。畫津宮三鳥居。膽男忍男社。一ノ御船木。白丁二人。八龍神。サシバ。白丁二人。二ノ御船木。白丁二人。大楯二枚。白丁二人。三ノ御船木。白丁二人。一ノ御神馬。嚙二人。二三四御神。

馬同上。田令。押領使。酒司。檢非違使。正イツレモ侍者アリ。馬上ナリ。鐘樓。神宮寺。三重塔。樓門。二王堂。アリ。國司代。束帶。宮介。其外イツレモ。鹿皮ニ座ス。二鳥居アリ。甲武者少々。八人。檢杖馬上ニテ。矛ヲ持ツ。其外馬上社人大勢。副祝東帶。大祝同。物申祝同。侍者大勢。旗差。馬上。内院。八人。馬上。弓矢。物忌。八少女。一人。並ニ馬上。むいのたれきぬ。獅子。二頭。腰鼓。四人。巫女。八人。歌人。笛。鼓。太鼓。銅拍子等。步障。の如き。四人。白布也。紅なる四人。神輿。前後ニアリ。神輿。一基。白丁十人。大神主。馬上。權禰宜東帶。旗差。騎馬等。步武者。ムアリ。コレラハ皆隨兵ナリ。大勢。國行事。大禰宜等。馬上。布呂武者。ムアリ。神主。馬上。東帶。其餘なほ難。盡筆紙畧之。

補正古書譜卷三

補跋云至于永德年中者如此御神事無退轉者也
右件於目錄者以建仁二年帳至德三年改誌者也
然者又依虫食損以至德三年之帳當時任其旨改
錄之處也尤可為後代之證據故也仍如件

永正十三年八月廿一日寫之畢 安主 田所

錄司代

大禰宜散位大中臣真之
新圖與書云右御幸之圖者古之所傳也蓋其神輿
之出儀列之嚴固祭祀之大者而就其圖亦可見其
盛矣至德年間猶有行之其後絕矣今以其圖之毀
損官教補脩之又就其式樣別造一圖以為其副各
為之卷軸云昔元祿十三年庚辰九月日香取社大

群書類從卷第十五
收此詞

禰宜讚岐守胤雪謹識

賀茂祭雙紙 原文永一本 一卷 始名為行伊信入道龜

名畫拾彙云法性寺為信卿 男從三位刑部卿
山院文永中繪合之時畫賀茂祭草子一卷詞世尊
寺定成朝臣書經業卿所調進也

同 元德摹本 一卷

與書云此繪龜山院御繪合之時經業卿所調進也
云々畫為信卿詞定成朝臣書之元德二年閏六月
中旬之頃令寫之繪繪所預隆兼朝臣詞入道內藏
權頭李邦朝臣寫之
本朝畫史云隆兼有賀茂祭草子畫後書曰元以為
信卿筆寫之
好古小錄云幹嘗于展翫スル前後六七次對スル

御見補考古書譜卷三 十三

コトニ結構及ビ畫圖ノ不允ヲ覺ユ。且隆兼所摹
ニノ隆兼ニ似ズ。隆兼摹ニ於テ不用レ已ヲ見ルベ
シ。原本ト相比セバ。出藍ノ勢アラシモノナリ
遠碧軒記云。弓削屋ニアル賀茂祭卷物モ。隆兼ノ
筆ナリ

補異本土佐系圖云。隆兼號土佐隆親二男。從五位
下。或云。四條弓削屋藏物。加茂祭禮之筆者

補同 一卷

補土佐系圖云。豊前守邦隆頭注云。文永賀茂祭畫。
寛政十戊午冬。元本展觀。訥言

補真頼曰。賀茂祭繪ハ。文永中龜山院の繪合ニ。
為信卿の畫うきたるがとめよて。そを元
徳二年のころ。土佐隆兼の更まよこ畫うける

よ。元徳本加茂祭の草子奥書おて詳かり。今
まよ土佐系圖頭書を見るニ。土佐邦隆もまよ
こを畫うけりとあり。邦隆ハ。倭錦ハ。經隆
の子おて。文永ころの人ありとあれども。お
つうあり。邦隆ハ。尊鼻分脈ニ。隆親の男よて。安
元頃の人ありと。倭錦顯文抄ニ見こたり。然も
バ邦隆の畫うけりといふニのハ。なるよく考
ふべきことあり。安元ハ。高倉天皇の御時あり

同 元録 新寫 一卷

好古小録云。新摸本。元祿七年閏五月。畫高階定信。
詞沙門旦生。此摸本咄々真ニ逼ル。戊申ノ火後所
在ヲシラズ可惜

同 一卷

倭錦云。加茂祭卷物。豪信法印

同 一卷

同書云。加茂祭小卷物。春日行秀

補真賴曰。行秀賀茂祭繪卷。摹本淺草文庫にあり。卷尾云。右一卷阿藩之臣。中大夫長谷川賴母。十襲藏奔焉。天保七丙申年冬十月。公事之暇。摹之。踰月而終。極月十有五日。矢野伊章榮雅印。と見たり。又卷尾云。住吉家鑑定。修理亮行秀云云。

補同

補看聞御記云。永亨六年十月廿五日。自内裏繪六卷被下。御室行幸。賀茂祭。檢非違使檢斷等繪也。同。一月内裏御返進。

補真賴曰。看聞御記ニ記載せさせ給ふとのハ。前件のをのと同物歟。異物歟。詳ならぬ。故に更よ此に掲載す。

同

異形賀茂祭 一卷

田中訥言。依文永賀茂祭草子之次第。新製妖怪行祭儀之圖一局。無詞書。號異形賀茂祭圖。奇異出意表。可謂逸作。蓋聞所進妙法院宮也。畫稿一卷。故高島千春藏。後為

舉母内藤家藏

上賀茂社圖

國朝書目載之

高野山圖

高野日記云。大師此山の圖。うせ給ひし。法性院の坊にあり。いづれの繪所といふとも及ぶまじ。

うみと侍る。竹ハ竹とみ。木ハ木とみ。鳥馬などいふ文字そのととゆるさまふ。ひしものもあり。たへあるものあり。

補吉野拾遺卷四云。先帝の御時。吉野のみり屋を忍出させ給ひて。高野山へみゆきならせ給ふ云々。みこしもやうく高野山よのほらせ給ひ。金剛三昧院に入らせ給ふ。法印おどろきあふき奉り。御忍の臨幸なれば。御幸のぎしきもことうはらせ。内院よりをるうは。廟所をえいらんま。て。御みことの下縁の外までほのろは。聞えさせ給へハ。あり。其後法印當山の靈物あり。として。一の巻物を天覽しそへらせ。ハ。高祖大師の弘仁帝へさ。けられ。高野一山の畫圖を

つくらせ給へる物。天皇御宸翰をそめさせ御寄附の文を書そへられ。朱の御手形たさせ給ふ。みそ有ける。君も御敵らんの後。御寄進の御ことの葉をそめさせ給ひて。一軸三跡の巻となさ。きて。いと。高野の一物あり。

本朝畫史云。空海有所書經卷。字皆象百物形者。

嘉勝寺觀自在王院壁扉繪

東鑑云。文治五年九月十七日。嘉勝寺云々。未終功。基衡八滅。仍四壁并三面扉。彩畫法華經廿八品大。秀衡造了。意云々。觀自在王院。基衡妻。宗任。建立也。四壁畫洛陽靈地名所云々。次阿彌陀堂障子色紙形。參議教長卿所。漆筆也。

補鎌倉永福寺大慈寺の圖

補同書卷廿八云。寛喜三年十月六日。可被建御願寺之由有沙汰。被點其地於永福寺大慈寺等内。兩國司駿河前司出羽前司隱岐入道信濃民部入道以下相具陰陽師三人重泰貞晴賢巡檢令金藏房相此地亦於當座召宅磨左近將監為行圖繪之。以攝津守師貞駿河判官光村等被申御所乎。永福寺内地者御臺所御願寺料内々被定云々。伊賀式部入道光西奉行

補高野山十二天扉の繪

補倭錦云。宅磨為遠高野山十二天扉繪

補真賴曰。右の部十二天扉繪の條見合とべし。

補又曰。こゝは高野山とあるハ高野山大傳法院中の覺皇院のことなり。下條覺皇院壁繪の

條をも見合とべし

補覺皇院壁繪

補野山名靈集卷三云。近衛院ハ兼海上人を開祖として大傳法院の墾内ハ覺皇院を創し玉女本堂ハ八角二階五間四面あり。玉柱九復花皆金銅を以てこれを造。内陣の四本柱ハ一本用途一千石ハあふりしとや。美麗察をへし。とへて内陣の彩色壁間の繪等ことごとく詭間為遠々筆ありとと

金山天王寺縁起 一卷

梵舜日記云。元和六年十一月廿五日。一條觀音縁起繪於智傳寺一見外題金山天王寺縁起繪。後奈良院宸翰縁起筆道遙院仍覺。真賴曰。仍覺。道遙院

補山城名勝志卷二。上洛陽云。觀音堂元在二條北鳥丸觀音町。今移北野社東金山天王寺是也。則洛陽三十三所内此寺

有極樂東門轉法輪
處額後小松院宸翰
云々故号天王寺太
子堂在本堂側

山城國愛宕郡柳原ト云所ニ初テ木屋ガケアリ
是太子ノ杣入ト申ハ此義也其後一條烏丸トホ
リニ本堂立ナリ其瓦ヲ烏クハヘテ運フ也悉如
此也仍烏丸通トハ申ナリ其後退轉シテ高倉院
御宇ニ再興アリ云々予縁起一見也少覺テ記之
畢
補倭錦云土佐光信狩野元信兩筆金山天王寺縁
起

貫雄曰此縁起刑部大輔光信狩野法眼元信兩
筆也

躬行曰山城南勝志云烏丸通武者小路北謂之
三條殿町其南有觀音堂町是在北野金山天王

寺舊地也とみりたり

鎌倉長谷寺縁起殘缺 二卷

書畫筆者未詳原三卷今
下卷逸

卷尾云長谷寺本願增海押字

弘治三年正月吉日求主本願院之内大夫

相陽鎌倉海光山慈照院長谷寺縁起貳軸之上卷

當寺住持傳蓮社辨秋求之以而當寺常住物寄進

之者也昔延寶第四丙辰年霜月十八日辨秋押字
但中

卷與書
同之

貫雄曰應永前後頃の書畫ふして中品のもの

なり下卷ハ已は佚しり

樂音寺縁起 一卷

安藝國沼田庄梨子羽郷内樂音寺縁起狩野安信

補真賴曰古畫目錄
小鎌倉新長谷寺縁
起と見延三ハこと
あり

地補考古畫評卷三

筆詞筆者不知也漢文

補真頼曰。樂音寺縁起一卷。摹本淺草文庫あり。卷尾云。狩野右京藤原安信筆印とあり。

餓鬼雙紙殘缺 一卷

好古小録云。畫工姓名不傳。

倭錦云。春日光長。餓鬼草子。

躬行曰。田中訥言所摹一卷。淺草文庫あり。詞書を逸す。

補本朝畫圖品目云。餓鬼繪一卷。畫工姓名不傳。

補真頼曰。摸本淺草文庫あり。摸本奥書云。斯餓鬼草紙一卷ハ。皇都醫師畑柳平をく。文かこせていふ。こハ訥言といへる畫師のうきりつゝたるがさるをの、貼却せんとをよしと

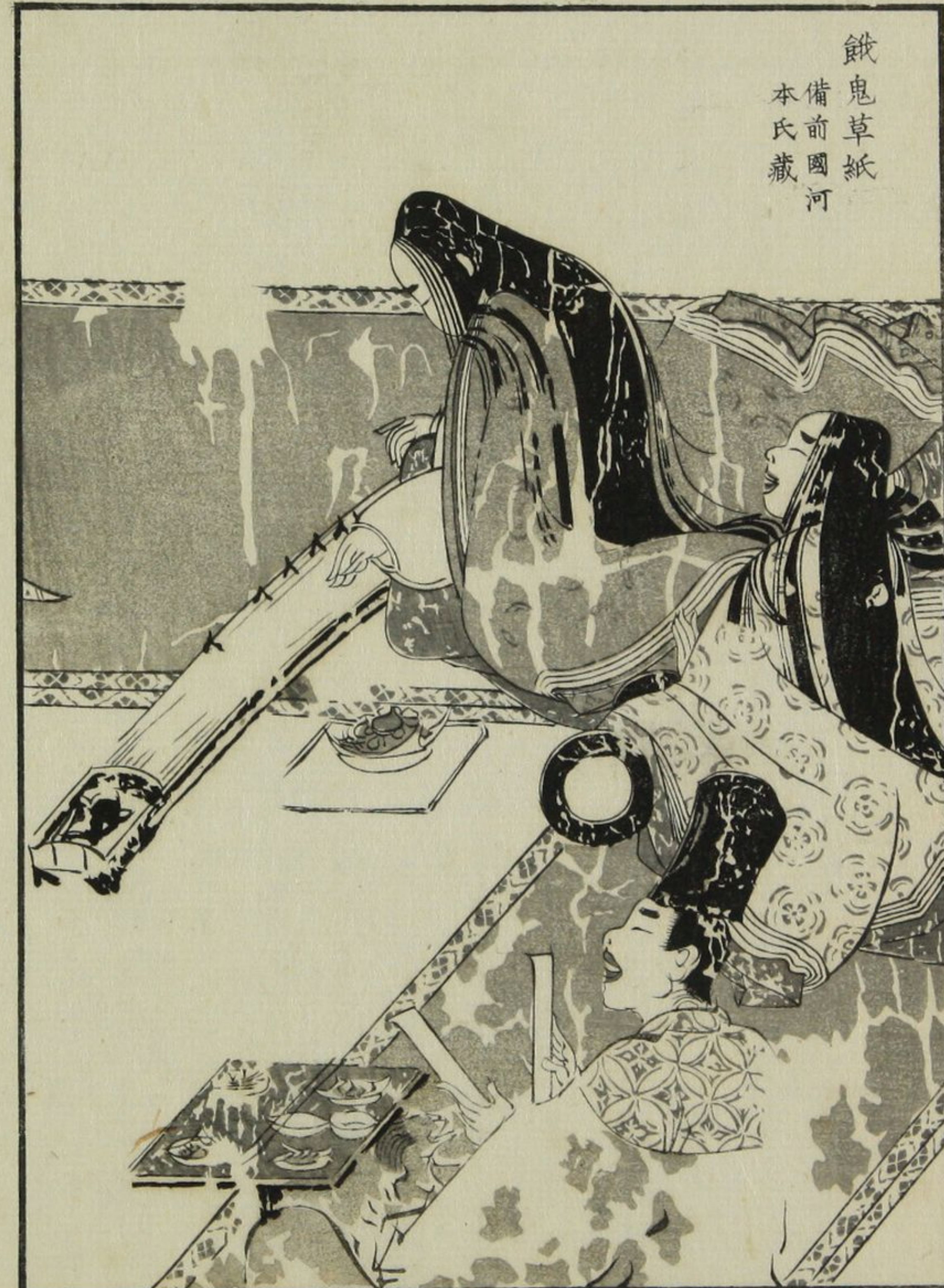
おほさハもとめさまハむや。なといひおこせさ。まをあハちひらき見る。摹本あうらいとよく用意し。さる筆つりひ色とり。こをうむたどたどし。あらを。原本をもさあうら見るこちせられて。いとめづらうなり。そのうへ世ハ流布せるこのうつゝ。多ハをし。めの二ひらのまて。後段のをらせまがま。あるある。よ。こをハま。くその原本のま。ををらせま。うつせし。ものと見ゆるが。猶をさめづらし。うもおをし。うくもかもふをのうら。やうて買とりつ。こ。原本ハ。今尚備前國ある。河本氏のをさるとなん。さらハこの世ハあるを。や。見ま。不し。とおをふ。ま。などう縁をとめをて。終まや。

魚目南考古畫卷三



三

餓鬼草紙
備前國河
本氏藏



增補新古今言言卷三

まゆやとどああり〜と見えたり

門部府生物語 一卷

住吉法眼具慶畫詞筆者未詳堀田攝州

躬行曰宇治拾遺物語。門部府生といふ舍人ありけるがまゝきを好みて射けり。賭弓まゆさむなどして相撲の使ひ下りし。かむね島といふ所にて海賊の船のよせさりたるを。あのみりゆとのきぬかぶりうるをしうさうぞきてぬき人の船ども射うへまゝものかさりあり。それし繪を加へたるなり

賀陽良藤物語 一卷

書畫筆者未詳

躬行曰此物語ハ舊本今昔物語第六十ニ備中國

賀陽良藤為狐夫得觀音助語あり。良藤狐は魅さきてさまゝの榮花はそこり。我家ある倉の大床の下は日ごろありしものがさりあり。近時それし繪をくひへたるをのなるべし

鏡わり物語 一卷

畫刑部大輔光信詞筆者不知

古物語類字抄云骨董集。此畫卷の時代つまびらうならざむども大り。文安寶徳の頃のものとおををる考へあり。詞長けむをらつ。外百番松山鏡の謠ハ此繪卷の詞書に似たる所あり

補貫雄曰鏡わりの草紙ハ刑部大輔光信の筆あり

補真賴曰鏡破翁繪詞一卷摹本淺草文庫子あり

補柿本縁起

一卷

補圖書一覽上卷云近來ノモノ也。畫光芳詞書有敬卿。與書曰。右和州葛下郡柿本邑影現寺縁起此一軸也。近頃依大徹和尚之索。文詞千種宰相中將有敬卿。畫大藏少輔藤原光芳。外題廣幡前内府筆訖。遂以為全備焉。各真迹不可貽疑惑。將千歳之寺寶者歟。

享保第十四季春上浣。權中納言重房

補靖蛉日記繪

補明月記云。貞永二年三月廿日。日來撰出物語月次各十五所不入源氏并狹衣於歌者故群他事不可

圖。狹衣。又院。御方別被書。此所撰。夜寢覺。御津濱松。心高東宮宣旨。左右袖濕。朝倉御河爾開留取替波也。末葉露。海人刈藻。玉藻尔遊。以十物語撰。每月五金吾清書訖。又加一見返之付。繁茂進入云々。以取事為興。又靖蛉日記十所許撰出。同送金吾許。

案山子妖物語

一卷

倭錦云。土佐光茂カ、シ化物卷。詞飯尾常房

補蛙合戦の繪

補本朝畫圖品目追加云。蛙合戦元五卷アリ。今三卷アリ。此内零卷四五尺許。福山侯ニアリ。此ノ寫濱松侯ニアリ。同書又云。福山侯蛙合戦四五尺ノモノ。イカニシツル一ニ候。弘化四年芝本屋平藏買取

補真賴曰。此の蛙合戰の繪ハ下條ニ掲げたる
覺猷戲畫の殘缺あるべし

補高野大師行狀圖畫刊本 十卷

補原本所藏者詳あらざ。畫工もまゝの詳あらざ

補真賴曰。高野大師行狀圖畫十卷。板本あり。こ
の繪土佐光顯の畫うくといへる。弘法大師行
狀記とよく似せしと。同物ならざ。詞もまゝの
異あり

補同殘缺 八卷

補松平越中守家藏。即今柏木貨一郎所藏

補真賴曰。予この本を見る。土佐光貞の證書あ
り。越前守光顯と鑒せり

漢書御屏風

江談抄云。故右大辨時範談曰。諸御屏風等有其數。
所謂漢書打毬。坤元錄。變相圖。賢聖。山水等御屏風
之類是也。隨時立之。委事見裝束司記文歟

鴨毛屏風 十二枚

在東大寺正倉院中。勅封之庫。謂之三倉。

外記日記。康治元年五月。鳥羽法皇云。六日戊戌早

且開勅封庫御覽寶物。昨日俄有議。召遣辨一人。藏

人左中辨源師能。大監物藤時貞等。隨身鑑參向。鑑件

有印辛櫃也。鏢相澁數刻不得開。有議切。扇畢。寶物之中。其形

聖武天皇玉冠。及鞍御被枕。碁局。筭竹。簫八竿。如笙

王右軍鳧毛屏風。侍臣等運置之。件屏風有良田讚

召判官代高階通憲令讀之

好古小録云。鴨毛屏風今存スルモノ十六枚。中一

枚。天平勝寶三年十月ノ八字アリ。十有餘年ノ畫。實ニ可賞。寺社寶物展覧目錄東大寺云。三倉中數十雙あり。といへり。元祿六年三倉開封之時。爲修補取出。書畫數十枚有之。

圃元幹曰。大内裏圖考證附録ニ。善キ騰寫アリ。躬行按。上ハ良田賛とあるハ。種好田良。易以得穀。君賢臣忠。易以至豊。諂綺之語。多悦會情。正直之言。倒心逆耳。正直爲心。神明所佑。禍福無門。唯人所招。父母不愛。不孝之子。明君不納。不益之臣。清貧長樂。濁富恒憂。孝當竭力。忠則盡命。君臣不信。國政不安。父母不信。家閨不睦。四言廿是なり。此歌を光明子のか。ハ。屏風銘といひ。又

右軍の書と先るあど。天平勝寶ハ歳の獻物帳。記されねバ。後人の蛇足なる事論なり。抑鴨毛篆書屏風六扇。其銘ハ。主無獨治。臣有賢明。近賢無過。親佞多惑。任愚政亂。用哲民親。箴規苟納。咎悔不生。見善則遷。終爲聖德。明君致化。勢在得人。二四言十其製ハ料紙ハ緑青點滿地ハ淡絳點初め胡粉を點上ハ少朱點の二種あり。前の主無獨治等の文を。每字篆楷二様。連ぬ書き。烏雲草木水石等の文様。ハ。貼。白文。渲染。篆字。ハ。黒。烏毛。を。雙。鉤。ハ。貼。回。ら。し。そのうちを斑文ある少。烏毛。を。左。右。ニ。番。ひ。て。豎。畫。ハ。立。ぎ。ま。に。横。畫。ハ。よ。こ。ぎ。ま。に。貼。り。鳥。毛。の。双。鉤。を。黒。緋。で。補。ひ。ら。む。然。し。て。

楷字ハ鳥毛を貼さば料紙緑青なるハ字中ニ
細小の朱點をひまなく打料紙淡絳なるハ字
中ニ綠青を蒔るが如くは塗り其上ニ又朱點
をいさゝろ加へたりさて四言の一句篆楷各
四字を一行として一行もべ一扇二行十六字
そ此中間の字のひまは飛雲鳥獸山水草木等
の文様を白文ニ現しより又一種各色の料紙
は上の良田讚を楷字のこゝ書き字中は上の
如く鳥毛を貼し盡さきその六扇あり是則鳥
毛文書屏風にして外記日記ニ義之の書とせ
るものあり此鳥毛屏風合て十二葉のうち
緑青地朱地各三葉鳥獸草木等
を繪きよるをり上件の獻物帳を檢ふ
るに御屏風壹佰疊のうち鳥毛篆書屏風六扇

補真頼曰。寺社寶物
展覧目錄。三倉中
屏風數十双有と記
せるハ鳥毛屏風の
ことを云へるハあ
らで。あべての屏風
の数を云へるあり
あべての屏風の數
ハ三百六七十扇あ
りて。大うとハ皆骨
のこあり

高五尺。廣一尺八寸。紫綾緑。赤漆木。帖。黒漆釘。碧
純。背。夾。纈。純。接。扇。指。衣。袋。鳥毛帖。成。文。書。屏。風。六
扇。高五尺。廣一尺九寸。紫綾緑。水。假。作。斑。竹。帖。黒
漆。釘。碧。純。背。黄。臈。纈。接。扇。指。布。袋。とある。其装潢
ハ大うと損を失されど。此兩種ある事ある
展覧目六は。三倉中ニ屏風數十雙有と記せ
るハ訛傳をらむ。鳥毛屏風ハ。此二種の外ハ。獻
物帳ニ。鳥毛立女屏風六扇今ハ存見
せむ。都て
十八扇。初めより數おさきをのからば。今本院
中屏風の木橋及屏風は貼し粗麻布夥くおせ
と。現存をる所の帳は麟鹿草木夾纈屏風。鳥
木石夾纈屏風。山水夾纈屏風。臈纈屏風とある
等の。殘闕ふやとおもむるもの十二扇。僊女

樹石屏風是ハ名のあらむ也載ハ今千世部六扇はさきの鳥毛篆書鳥毛文書の二品十二扇を加へて三十扇ハはむぎ也。是等真ハ千百餘年の書畫あり。其式ともハ左右の貼の下二寸許を長くして足とし。屈膝ハ貼ハ副ハ上下左右ハは橢圓の穿ハ縮ハをうらち。金銅を襯ハ紫革ハ或ハ夾纈等の絶ハを貫きて接扇ハとせり。貼ハ漆ぬり。又ハ木假斑竹等を用ゐる。金銅黒漆等の釘ハまた同種の浮漚釘ハを打ハり。然して穿縮ハの上下ハは錢形ハの木を貼ハり。こハ疊むときハ鳥毛の摩ハを損ハとれぬ用意あり。又云。外記日記ハ高階通憲とあるハ。少納言入道信西也。初ハ高階經俊ハ猶子たりと。平家物

語見ゆ

樂府屏風

大鏡卷五云。此關白の一とせの臨時客ハあまり名ひて御座ハあるがら立ハもあへ給ハを。ものつき給へるハこそ高名ハのもろたりハかきハる。樂府の御屏風ハもからりとそこハなをさハれ。本朝畫史云。師足以畫鳴ハ于時。畫樂府屏風。畫工便覽云。諸垂。皇后宮大進。仕一條院得畫名。春村曰。師足といへる高名ハの畫師ハいハへある事ハあり。をるハるハ弘高ハの誤ハあり。塙忠寶云。所藏大鏡古抄本ハハ。むろたりとあり。以て証をべハといへり。畫工便覽ハ諸垂ハと。皇后宮大進ハと。官名をさへハ推當ハ記せるハ非也。

耕作圖屏風

二帖

倭錦云土佐廣周耕作屏風

補唐繪屏風

補天聽集云天文四年十一月七日可野之唐繪屏風今日書進近頃見事也

補真賴曰可野ハ狩野あり元信をいへるありべし元信ハ永祿の頃迄存せり

冠帽圖

一卷

本朝畫圖品目云冠烏帽子之圖一卷

補真賴曰此の圖とハ今世ハ行をるゝ板本の冠帽圖の原本あるとのう

樂器圖

畫工未詳多畫名物器

補春村曰名物の器を多く細密に寫したるものあり

漢人狩獵圖

倭錦云巨勢金岡漢人狩獵圖殘缺

躬行曰この圖萩侯の藏

漢軍牽馬圖

一鋪

同書云小川僧正漢軍卒馬牽圖

畫工便覽云承澄横川長吏號小川僧正父正二位内大臣師家公常好畫佛像粗似金岡筆風

補唐儂圖

一卷

補圖畫一覽上卷云筆者不知無詞最初ニ樂器ノ圖アリ舞樂伎樂等様々イマタ見聞セサル樂多ク交レリ信西入道ノ本ノ由卷尾近キ處ニ奥書



曾補考方書晉卷三

二六

賈義



漢人狩圖
毛利氏藏

增補考方書晉卷三

アリテ。又追加ノ圖アリ。其奥ニ三条宮御畫。御室繪。舞銘。當今宸筆。寶徳元年九月日トアリ。信克カ信西樂圖ト云ヘルハ。是ナルベシ。近家宿禰所撰出セリ。是等ノ舞ノ内ニ出セル伎樂。東大寺正倉院ノ弓ニモ圖アリ補畫圖品類云。教訓抄ニ載ル所ノ。唐舞繪有る也のなり

補好古小録上卷云。唐儻畫一卷。教訓鈔及讀教訓鈔ニ載スル所ノ。唐儻繪ナル者也。樂儻圖中。至寶也。

補真頼曰。唐儻ハタウブと稱をべき。定めがこ。因てたノ部も掲ぐ

補香囊樣畫圖
補看聞御記云。應永卅二年三月廿七日。心日御記

後伏見院御記。五合召寄。名香御記撰之。前宰相相有長資朝臣等同撰之。五合之内數卷披見。更不見出之間。令會計終日撰之。入夜又撰之。予見出伏見院中陰御記下卷ニ有之。高名之至自愛無極。褱樣有繪圖委細御記也。秘事也云々。面々不撰出之處。希有而見付了。尤高名為悦也。

補管絃圖 一卷

補古繪目錄云。管絃圖一卷。京都圓山主水藏

補高野山古器及樂裝束圖 六卷

補摹本六卷。淺草文庫ニあり

補真頼曰。摹本卷尾云。右高野山學侶。寶藏中所藏之樂裝束也。今茲丙申仲秋。借得之。門主無量壽院真寫。天保七年九月九日。會心齋

兼康繪本 一卷

高山寺聖教目錄第一百一合。義湘元曉繪。能惠得業繪。兼康繪。在禪堂

補古畫目錄云。繪本一卷。兼康筆。杻尾高山寺子院北禪院藏。

本朝畫史云。兼康未詳其姓氏。明慧之時人。而有畫圖之名。見于杻尾書畫之目錄。

寺社寶物展覧目錄高山寺云。兼康繪本一卷。在禪堂院。

春村曰。兼康ハ建永二年五月十四日の明月記小内舍人とも。宗内ともありて。御堂の障子十五間。名所圖を畫きし事。及建曆三年四月廿六日。法勝寺塔供養に依て。繪師兼康行事賞

の事。又寛喜元年十一月十四日。殿下屏風調進の事等あり。但其後兼康朝臣とも。但馬守兼康ともありて。右大將家の家司の由も之あり。尊卑分脈に醍醐源氏右馬頭有長朝臣嫡男。兼康。長門但馬等守。右馬頭從四位上とある人なり。躬行曰。予明治十年四月高山寺に至り。此卷真迹をみる。奥に□□年十一月廿三日書寫畢。實勝花押白描にして畫力あり。蓋十二因縁譬喩圖ありといへり。兼康繪本といふ其故を知らむ。補兼文曰。此の繪卷の奥に兼康の名を記せり。故に兼康繪本といへり。

補真頼曰覺猷僧正繪本も戲畫も今ハあしこめて覺猷僧正戲畫といへり

覺猷僧正繪本

一卷 或云覺猷畫藁

卷尾云秘藏繪本也拾四枚也建長五年五月日竹丸押

好古小録云禽獸草木ヲ寫ス戲畫ニ非ズ

補本朝畫圖品目云僧覺猷畫藁一卷禽獸草木寫建長五年五月日竹丸花押

補圖書一覽上卷云覺猷僧正畫藁一卷寶物目錄云奧書云秘藏之繪本也拾四枚ノ内建長五年五月日竹丸花押

補嵩年日禽獸草木寫

同戲畫 三卷

好古小録云畫本ト共ニ四卷畫力可愛高山寺所藏勝畫ト可並賞

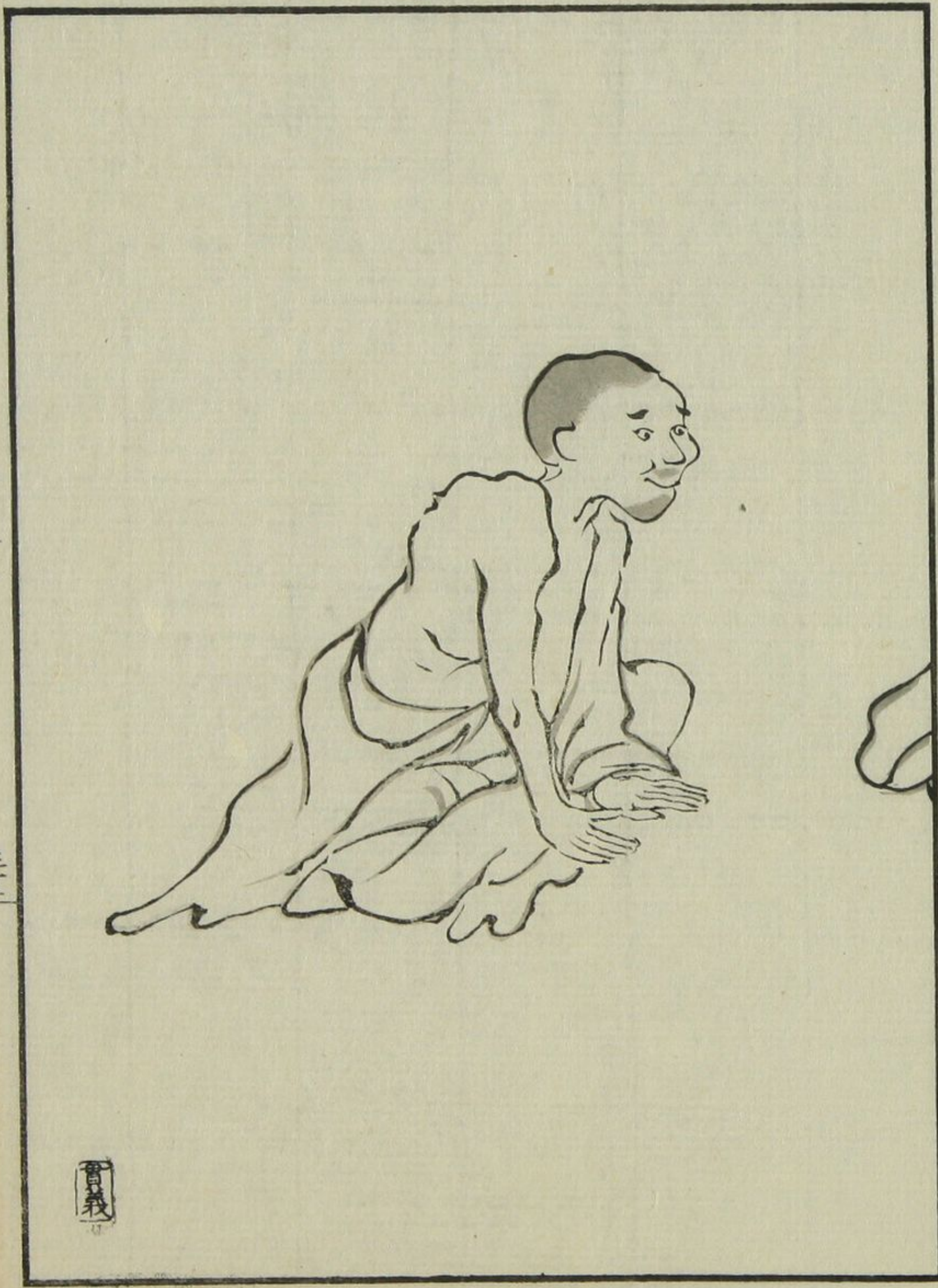
補圖書一覽上卷云覺猷僧正戲畫三卷上ノ畫藁ト共ニ四卷梅尾高山寺ノ藏也勝畫トハ別也混ズベカラヌ

倭錦云鳥羽僧正獸戲草畫書續光長筆梅尾高山寺什物

躬行曰此四卷のうち二卷ハ猿兔狐蛙の類の遊戯圖あり一卷ハ龍虎牛馬鶏犬等の戲畫一卷ハ人物の遊戯あり曾て真跡を展看するハ首尾一貫して他筆の補續あるを知らざ

補真頼曰覺猷僧正戲畫三卷摹本淺草文庫あり

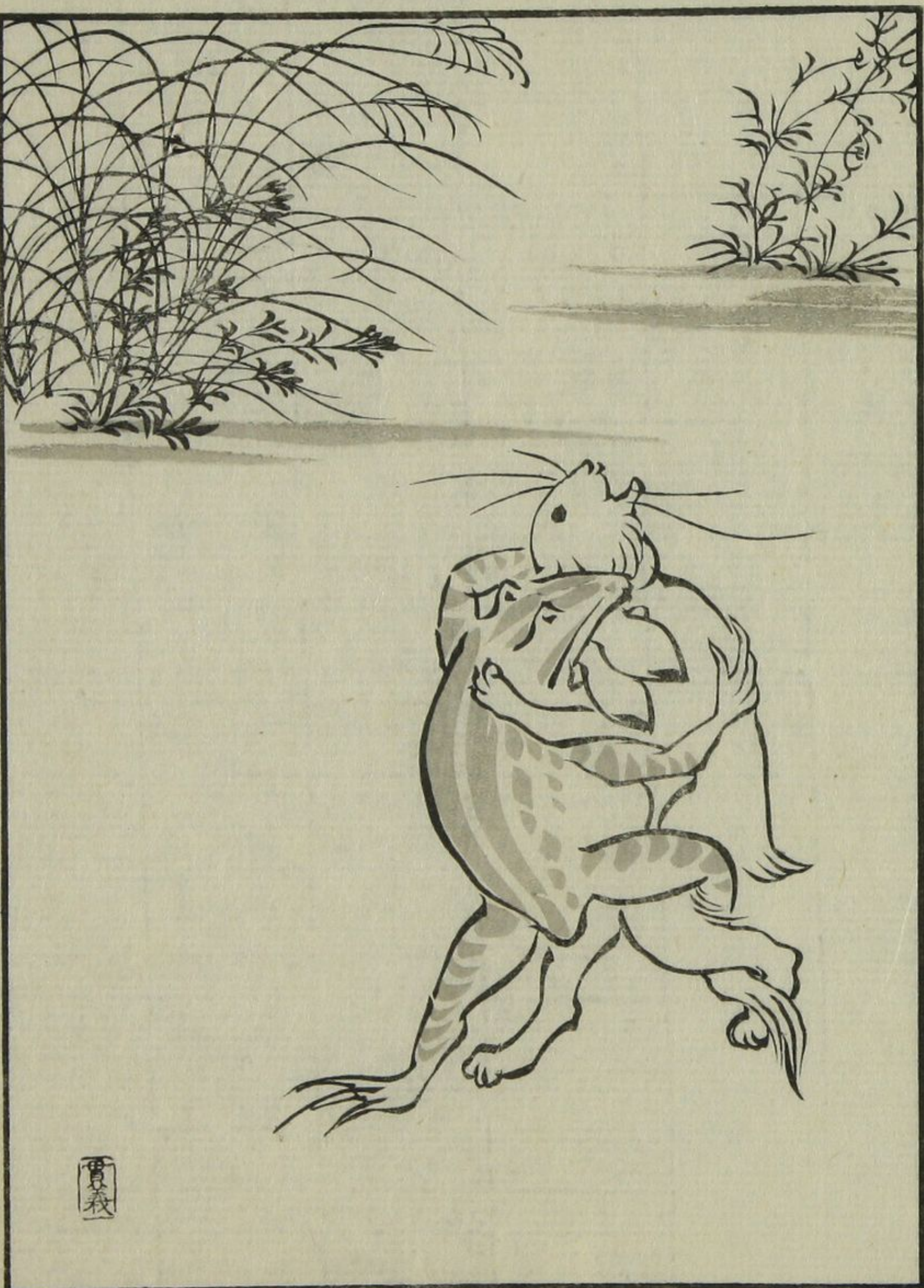
補又曰畫學叢書ハ覺猷僧正繪本の今高山寺の本ヲ傳ハラざるところ二三處見込あり



實義

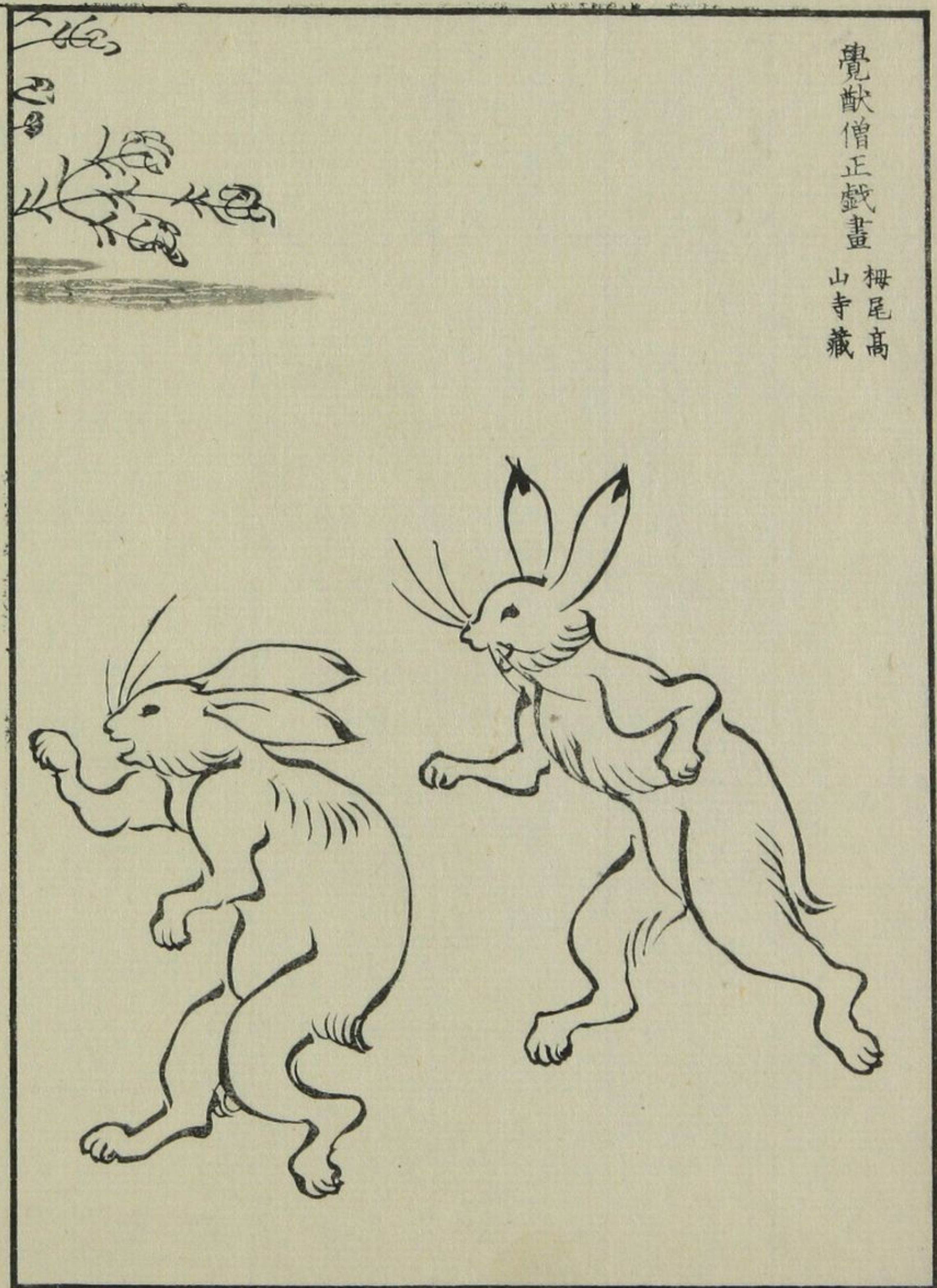
覺猷僧正戲畫
山寺藏





賈義

覺猷僧正戲畫
山寺藏



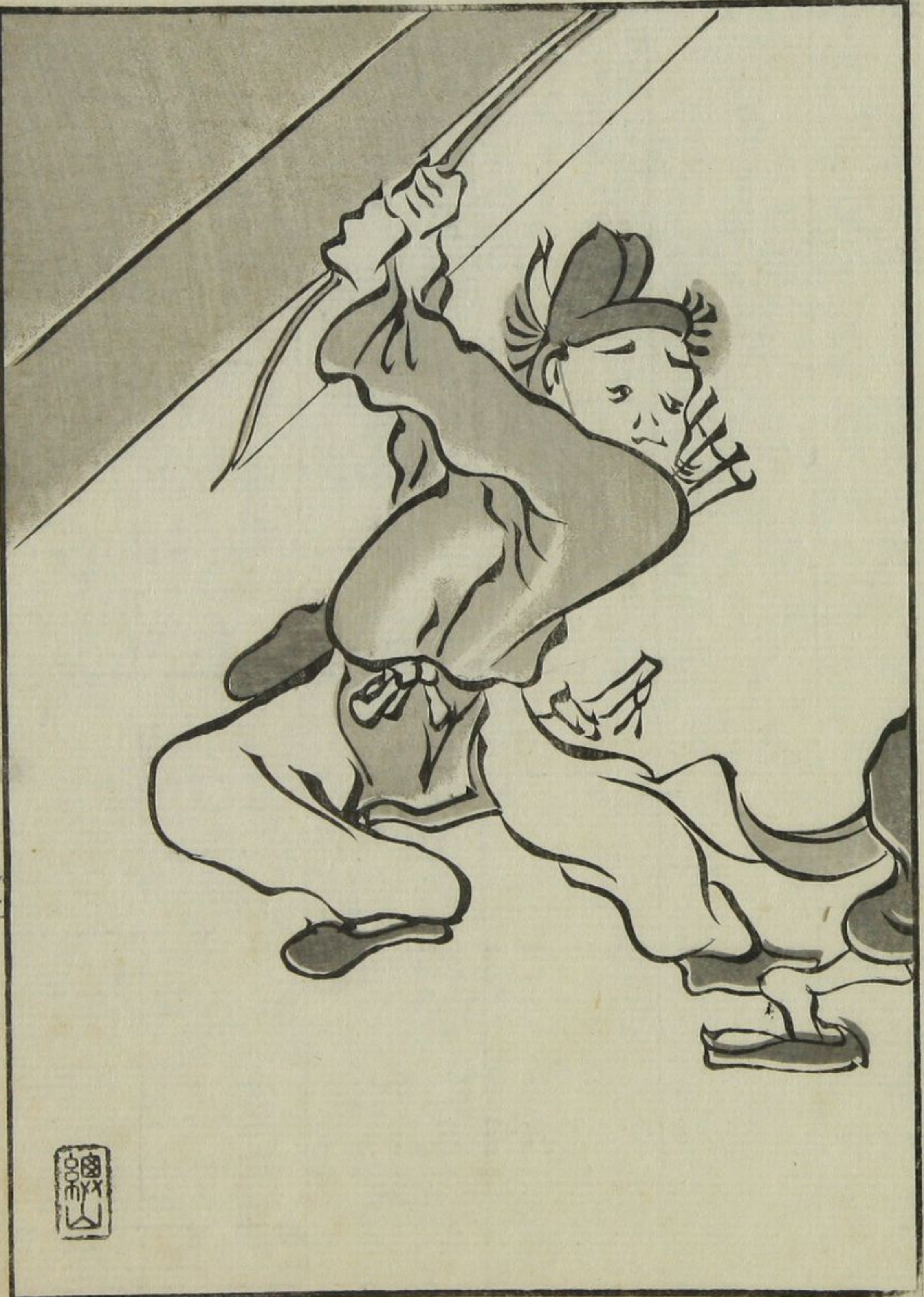
梅尾高

學叢書ハ谷文晁の縮寫を板本とせるものあり
補又曰覺融僧正戲畫ハあるひハ獸物畫ともいへり其數三卷あるも固よりさることありけり其の故ハ明治十六年三月此卷を博物局よて修理せし裏打の紙の下より元龜元年七月廿一日の裏書いてより獸物繪上中下同類局二局開田殿と見よたるよてあらせたりこの獸物畫の外ハ同類のものを二局ありこと亦知らせり去りれともこの二局ハ今ハつとらむ惜むべしこの裏書の全文ハけノ部華嚴縁起の條に載せ就て見るべし

勝畫 一卷

卷尾云繪者鳥羽覺猷僧正真筆詞者醍醐成賢僧正手蹟也既五代相傳尤以為重寶哉
好古小錄云畫僧覺猷元東寺金勝院所藏ニノ今傳ル所ヲレラス
補本朝畫圖品目云勝繪二卷畫鳥羽覺猷詞醍醐成賢皇都在東寺後白粉屋又兵衛家藏
橘窓自語云鳥羽僧正ノ戲畫陽物クラベ放屁ノ卷世ニ摸ヲ傳ヘタリシガ寛政九年十月三日富小路西側白粉屋ニテ本紙展看スル事ヲ得タリ流布ノ寫トハ詞書多クテ筆勢大ニ勝レタリ
補倭錦云鳥羽僧正カチエ
躬行曰醍醐座主成賢權中納言藤成範卿男少納言入道信西孫也寛喜三年辛卯三月十九日

勝繪 西京田中火藏



寂七十歳。此卷今在西京柳馬場三條商戸田中某家。但橘窓自語云。真本ハ詞書多きよ。を識せらハい。う。詞ハ稍三四所。至て簡あり。

補真頼曰。勝畫のうち。放屁の卷ハ。或ハへひり繪ともいへり。へノ部見合とべし。又放屁軍ともいへり。はノ部見合とべし。陽物をくらぶる卷ハ。陽物くらべ繪ともいへり。やノ部見合とべし。かくハいへども。陽物くらべ。放屁軍。あハせて一卷ののあり。摹本淺草文庫にあり。

鏡山の繪 一幀

畫越前守長隆。讚和歌。壬生二位家隆卿

躬行曰。家隆卿。嘉禎三年八十歳薨也。長隆ハ侍從從五位下。越前守。正三位家信卿。四男あり。顯

文抄云。文永中の人とせり。然らハ時代いさ。う後述さるる。此繪躬行家藏せり。

補真頼曰。此の繪。今柏木貨一郎藏也。

閑院鶏の繪

古今著聞集卷六云。成光閑院の障子。鶏を書きりけるを。實の鶏み。け。ると云ん。此成光ハ。三井寺の僧興義ガ弟子。まなん侍りたり。

補笠の繪

補枕草紙卷九云。ほそどの。びんあき人あん。曉。ま笠さ。せて出けり。といひ出さるを。よくきけ。バわがうへありけり。地下あどいひて。めや。を。く人。のゆるされぬ。ありの人。まもあらざ。め。る。を。あやしの事。やと思ふ。な。うへより御文を。

補 狩獵の繪

てきて返事只今とわねせらまふり何事ありと
思ひて見せバ大がさのうさをかきて人ハ見
せ只手のうぎり笠をとらへさせて下ニ
みやま山のをあけしよりとかせ給へ
りるほをうなき事よてもめでさくのそあを
させ給ふよとづうしく心つきなき事ハ
御らんぜらまふとおをふよさるそらごと
の。出くるをくるしりれどをうしうて云々
院御号新東鑑卷九云文治五年九月十七日云々無量光
院御堂事秀衡建立之其堂内四壁扉圖繪觀經大
意加之秀衡自圖繪狩獵之躰佛者阿彌陀丈六也
三重寶塔院内莊嚴悉以所摸宇治平等院也

堅田の間の繪

倭錦云土佐光信大徳寺坊中堅田之間
土佐系圖光信頭注云大徳寺瑞峯院堅田間粉本
一卷

貫雄曰近年本寺を供して世上にのみ見たり

補 春日山童陵王圖

補 倭錦云春日行秀春日山童陵王

補 耕作屏風

補 同書云土佐廣周耕作屏風

補 呵梨底母像

補 山槐記云治承二年六月廿八日中宮御着呵梨
底母雜事供臣沙汰大十五童子御方供雜事御方女房被沙汰已上二
檀大僧正禎喜法務東寺獻支度長者件二躰佛師法眼

頼源相率小佛師等於大僧正檀所在彼檀所也仍
倉東高今日之中奉圖畫之頼源兼日進支度御衣
絹以下用途為二品沙汰被下行事受領功之内也
寛平法皇御影 一幀
傳云金岡所畫

補鎌足公像 補真頼曰寛平法皇御影摸本淺草文庫あり

補集古十種肖像 部 云藤原鎌足公像大和國多武峯

補倭錦云巨勢金岡鎌足公多武峯本尊
補真頼曰此の像傳へて巨勢金岡の筆といへり
摹本淺草文庫あり

補同

補本朝畫圖品目云大織冠神像九條殿御藏
補真頼曰九條殿藏大織冠神像摸本淺草文庫
あり記して云ハク九條殿所藏原本ハ多武
峯護國院所藏小野道風筆云云とあり

補同

補集古十種肖像 部 云藤原鎌足公像攝津國地福寺
藏

補同

補龜井家臣某藏
補摹本端書云大織冠尊像石見龜井殿家臣所持
之也金山傳三郎殿ヨリ見セニ來土佐家珍藏借
用寫渡邊丹崖秘藏
補真頼曰此の圖攝津國地福寺の像と似て少

補真頼曰鎌足公の
像ハ大織冠影とも
いへばたの部よ
え掲げあり

一異あり

補鎌足公定慧和尚不比等公像

補多武峯社藏

補倭錦云小野道風鎌足公多武峯ニ有り

補真頼曰此の像摸本淺草文庫ニ有り像のう
ろよ松樹ありて藤花かゝせり多武峯一山
護持の本といへり多武峯ハ鎌足公の像ニ
鋪あり其の一鋪の像金岡筆と稱此の像とい
とよく似て像のうろよ松と竹とあり倚子
ハ甚異あり

補勝光公像

補集古十種肖像部像

云藤原勝光公像山城國知恩寺

藏本朝畫圖部亦此をよ同ト

鎌足公像 大和國多武峯社藏



補真賴曰。勝光公ハ。即日野勝光公あり。烏帽子直衣奴袴を着り。鬚甚長。

補兼經公像 一幀

補梅尾高山寺藏。畫工不詳。裏書云。禪定殿下御影。被納石水院。又東方御影者。衣冠の像あり。此尊影者。道世入道之御影也。

補真賴曰。倚子の upper 珠數をもちて。坐せる像あり。甚巨幅あり。兼經公ハ。岡屋關白あり。摹本。淺草文庫よりあり。

鴨長明像 一幀

補松平帶刀藏。繪光茂。縮本。

補真賴曰。有髮の僧形にて。前より琵琶あり。畫上より置色紙あり。摹本。淺草文庫よりあり。

躬行曰。長明。文治建曆中人。河合杜氏人。好歌善糸竹。隱大原山。更名蓮胤。曾在日野外山。著方丈記。

補寒山拾得像

補倭錦云。宅磨松溪。寒山拾得印アリ。

補鑿真和尚像

補集古十種肖像部云。鑿真和尚像。下野藥師寺藏。

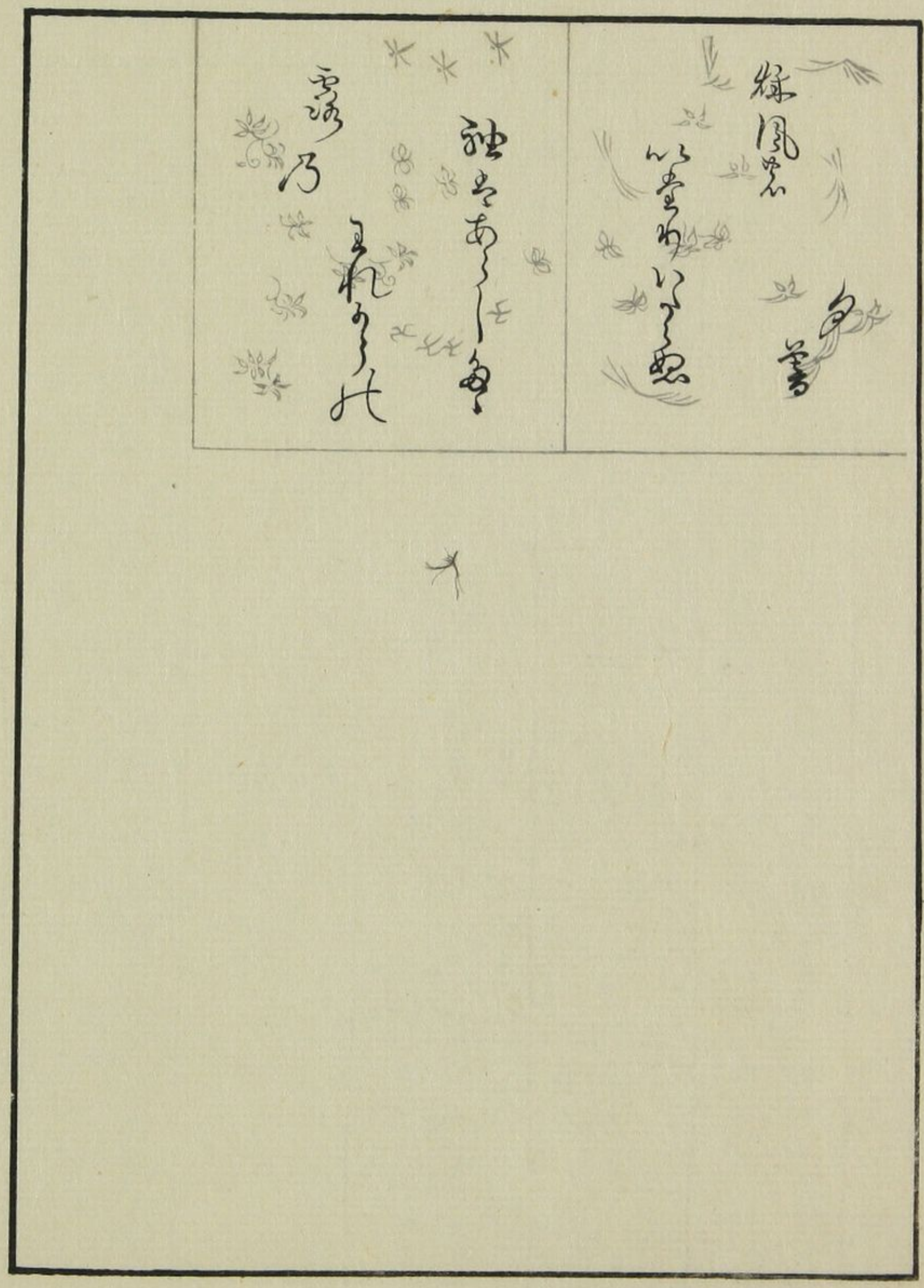
補下野國誌卷六藥師寺の條云。鑿真和尚畫像。安國寺所藏。從南都招提寺授與之。

補真賴曰。此の像倚子に坐せり。又曰。藥師寺の戒壇の跡に。安國寺をバ建さるゝて。これハ足利尊氏の所願あり。空華文集卷十九云。故征夷大將軍源公執政之初。曆應之間。創於六十六州。



鴨長明像
摹本在淺草文庫

百首有以力一書百首能百家三



地補考古書言卷三

每置一寺皆名安國寺云云。梅松論下卷云。三條殿ハ六十六ヶ國ノ寺を一宇ツ、建立シ、各々安國寺と号ク云云。と見直シリ。因テ按ル。此ノ像藥師寺ニ傳エタルモノウ。まコハ尊氏ノ安國寺ヲ建テ、此ノ像ヲ招提寺ヨリ請得テ、更ニ安國寺ニ納メタルモノウ。詳ならズ。そハトモまシクくまれ。藥師寺藏といへると。安國寺藏といへるとハ、二物ニあらざ一物アリ

補 覺鏝上人像

補 倭錦云。覺鏝上人自畫像。長谷寺什物

補 真賴曰。半身ノ像アリ。摹本淺草文庫ニあり

補 同 一幀

補 仁和寺御室藏。畫工不詳

補 裏書云。覺鏝上人尊影。右破損之間加修覆者也。應永三十二年六月。權大僧都照海。又云。此肖像破損之間。加修補。令寄附事。元和八年六月。金剛生法子恭畏

補 真賴曰。倚子ノ上ニ坐セタル像アリ。畫上ノ小傳ヲ記セリ。摸本淺草文庫ニあり

金澤貞將同貞顯同顯時同無名像 四幀

補 本朝畫圖品目云。金澤家四代像。鎌倉稱名寺什

補 真賴曰。摹本淺草文庫ニあり。武藏前司貞將。修理大夫貞顯。越後守顯時。其他無名ノ像アリ

補 迦文和尚像

補 天陰語錄部贊云。釋迦贊上。細川讚州太守源府君。修文偃武之餘。遊心於繪事。天機之妙。直造玄奧也。

略中 癸巳冬營中多暇。圖迎文老師之像。命余題其上。峻拒數四。不賜允容。綴拙語。應嚴命云。略下

補 春村曰。癸巳恐らくハ文明五年をらん

補 覺如上人像

補 常樂臺主老衲一期記下卷云。觀應元年四月七日。仰圓寂父祖兩所之御影。各作讚

補 春村曰。常樂臺主ハ本願寺存覺上人。父ハ覺如上人。祖父ハ宗惠法印也

補 幸壽丸像

補 集古十種 肖像 云。幸壽丸像。攝津國滿願寺藏

補 蒲生氏郷像

補 同書云。源氏郷朝臣像。陸奥國會津厚徳寺藏

補 真頼曰。束帶の像あり

補 加藤清正像

補 同書云。藤原清正朝臣像。尾張國中村明行寺藏

補 真頼曰。衣冠をして小刀を帶。右の手は扇を持てり。甚異体あり

補 同

補 京師本國寺藏

補 真頼曰。小紋の肩衣の上下。桔梗の模様ある。小袖を着。小脇差をさ。手は扇をふてり。當時の肩衣の製を見るへきものあり。摸本淺草文庫にあり

補 同

補 京師本國寺中。勸持院藏。中川壽林所畫

補 匣裡書云。清正公慶長八癸卯當院御逗留之砌

家臣御從弟中川壽林拜寫西大坊三十八世妙華
日延

補真賴曰此の像本國寺の像と。かゝるゝ異な
ることなり

補同

補肥後國合志郡引水村手島新三郎全仙藏

補真賴曰此の像肩衣袴を着る坐像にて手
は扇をもてり板本にて世に流布せり板本の
附録に云くこの御像を傳へるは肥後
國合志郡引水村に在り手島新三郎全仙よ
り八代の祖を手島新十郎といひて朝臣の御
身ちりくわつりひ給ひしものあるがか
こくも朝臣の御かちをまのあがりうつ

まつらんことをこひまうして御ゆるうけ
まはりてうつりまつり御像あるをよ
家まつとへをこたび全仙よこひてゆまと
りてうつりつかくハをのつるありあは
れこの朝臣をたふとまんものハこの御像を
あふぎまつらざらめやも弘化三年五月朔日
肥後國好古堂主人判と見返たり

補康德寺殿像

補集古十種部肖像云東山高臺寺藏

補真賴曰法躰の像あり

補高臺寺殿像

補同書云東山高臺寺藏

補真賴曰法躰の像あり

增補考古畫譜卷三

終

